

健康づくり講座で健康への意識を高める

この日、健康づくり講座が開かれ、弘前大学医学部附属病院感染制御センター呼吸器内科・感染症科の糸賀正道先生が「COPDって知っていますか？」と題して講演しました。喫煙者の20年前後が罹患するとされている代表的な慢性呼吸器疾患のCOPDは、高齢者ほど罹患者が多いのが特徴。循環器疾患の発症やうつなど全身に影響を及ぼすとされ、糸賀先生は病気を理解し確実に禁煙しなければならないと呼び掛けました。

参加した男性は「先生の話聞いて止めてみようと思った」と話しました。

このほか、講座では、つがる市保健協力員が来場者の肺年齢や骨健康度を測定したり、つがるトキメキ体操を実践披露したりするなど、健康づくりへの意識啓発に努めました。



参加者にCOPDの症状を解説する糸賀先生

防火フェスで火災予防を呼び掛ける

10/17
伊藤鉱業アリーナ
つがる



元気よく大きな掛け声でパレードする園児たち

市民の火災予防への意識を高め、市内の火災による被害を少しでも減らそうと、市消防本部は、秋の火災予防運動期間に合わせて10月17日と18日の2日間にわたり、「つがる市防火フェス2023」を初めて開催しました。

市内のこども園等10施設の園児約140人が幼年消防クラブとして参加し、火災予防を呼び掛けました。

園児たちは、かわいらしく元気いっぱい、まといや拍子木などを持ってパレードしたほか、よさこいや和太鼓を披露。また、幼年消防ポンプ車操法では、姿勢よく機敏な動きで日頃の訓練の成果を披露し、放水してのりを射ると観客から拍手が上がりました。

17日はあいにくの強風のため、伊藤鉱業アリーナつがるメインアリーナの中をパレードしました。

長谷川力響君が大相撲での活躍を誓う

五所川原農林高校3年の長谷川力響君(木造)が、大相撲・安治川部屋への入門が決まり、安治川親方(元関脇安美錦)夫妻と一緒に倉光市長を表敬訪問し、大相撲での抱負を語りました。

長谷川君は小学生から相撲を始め、今夏の全国高校総体では個人戦3位の実力。右四つ、つり出しを得意とし「小さい頃から憧れていた親方のように強くなりたい。つがる市の皆さんに応援してもらえよう相撲をとれるようにがんばります」と意気込みました。

親方は「青森県出身の力士が少ない中で、つがる市から関取が出てくれたら」と話しました。

倉光市長は「自分で決めた道。親方の元で精一杯がんばってほしい。つがる市も応援します」と激励しました。

長谷川君は11月6日の新弟子検査に合格。11月場所の前相撲に出場し、夢への一步を踏み出しました。



憧れの安治川親方(左)のもとで大相撲に挑む長谷川君(中)

10/21
(株)アグレックス
つがるセンター

市内の誘致企業を視察し情報を共有



(株)アグレックスつがるセンターの担当者(左)からデータ入力、コールセンター業務の説明を受ける協議会関係者

つがる市誘致企業等連絡協議会(利根川敏会長)が、企業の経営ノウハウや現状、課題などを情報共有するため視察研修会を開催。今副市長をはじめ、協議会の会員企業や金融機関などの関係者が、主にデータ入力、コールセンター業務を請け負う(株)アグレックスつがるセンター(木造)を訪れ、会社概要や業務内容などの説明を受けた後、同センター内を視察しました。

このほか、県職員による出前講座が開かれ、関係者たちはDX(デジタルトランスフォーメーション)に関する県の取り組みに耳を傾けました。

協議会の利根川会長は「情報産業という先進的な会社を視察でき、期待どおりの内容となった。今後は協議会メンバーを増やし、誘致企業の事業課題を共有するなど、協議会としてもう一段踏み込んだ活動ができれば」と協議会の発展に期待を込めました。

DXとは、デジタル技術を活用し、長期的なビジネス環境の変化を見据え、事業形態を進化させることです。詳細は、青森県DX総合窓口ポータルサイト(QRコード)をご覧ください。



柏中生が旬を迎えたリンゴの収穫を体験

柏中学校(中道人子校長)1年生27人が、柴谷松雄さんのリンゴ畑(柏地区)を訪れ、赤く色づいた「ふじ」の収穫を体験しました。

同校では、総合的な学習の時間でリンゴの栽培について学ぼうと、6月に別のリンゴ畑で実すぐりを体験。今回の収穫体験では、自分の背より高いところにあるリンゴも丁寧にもぎ取り、約50かご分を収穫しました。

体験を終えた山崎虹胡さんは「普段は食べる側だったので貴重な体験だった。丁寧に収穫することを意識して頑張った」、近藤大虎くんは「小学生のときに比べ、手の大きさが変わり収穫しやすかった。自分の成長も感じることができ、楽しかった」とそれぞれ感想を話しました。

柴谷さんのご家族は「みんな上手に収穫してくれてとても助かりました」と感謝しました。



10/25
柏地区

リンゴ一つ一つ丁寧に収穫する生徒たち

明治安田生命が市に寄付金を贈呈

11/1
市役所



倉光市長に目録を手渡す浅野部長

明治安田生命保険相互会社青森支社が、地域住民の健康増進や介護・認知症対策、子育て支援などに役立ててもらいたいと、市に70万9,500円を寄付しました。この寄付金は、同社とグループ会社の全従業員が出身地などゆかりのある地域を指定して1口500円で行う募金に、会社の拠出金を上乗せしたもので「私の地元応援募金」として、全国の自治体などに贈呈しています。

この日、同支社浅野善太郎市場開発担当部長らが市役所を訪問し、倉光市長に目録を手渡しました。

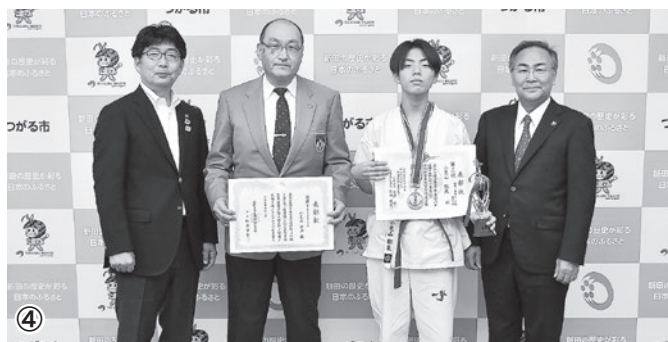
浅野部長は「お世話になっている地元や離れた場所にあるふるさとに思いをお届けする活動として実施しています。さまざまな形でお役立ていただきたい」と話しました。

倉光市長は「全国の従業員から集まった善意の寄付を非常にうれしく思います。有意義に使わせていただきます」と感謝しました。

児童生徒が大躍進!

児童生徒が各種県大会等で優秀な成績を取めましたのでご紹介します。

①柏中学校3年生成田柚歌捺さん:第75回青森県中学校英語弁論大会優勝 ②五所川原サングズ(中学生・軟式野球):第15回全日本少年春季軟式野球大会兼第21回東北少年軟式野球新人大会青森県予選優勝 ③つがる市選抜(小学5年生・軟式野球):第7回CBS少年軟式野球「学童新人」青森県予選準優勝 ④稲垣中学校3年生小見山郁楽君:2023年第23回全東北空手道選手権大会組手競技・中学2・3年男子の部第3位



市立図書館来館者150万人達成を祝う

つがる市立図書館が来館者150万人を達成しました。この日、図書館前では記念セレモニーが開催され、150万人目となった柏小学校3年生の三上結愛さんに記念品が贈られました。三上さんは「最初はびっくりしたけどうれしかったです」と感想を話しました。

また、イオンモールつがる柏シャコちゃんコートでは、お笑いや女優、作家などマルチに活躍する鳥居みゆきさんとお笑いコンビ飛石連休の藤井ペイジさんを招いてトークショーが開かれました。鳥居さんが描いた絵本「やねの上的乳歯ちゃん」を面白おかしく紹介したほか、2人の掛け合いトークに会場からは笑いが起こりました。

さらに、図書館では日本豆本協会の田中葉会長を講師に、豆本と呼ばれる小さな本の制作体験も行われ、さまざまな催しを開いて来館者150万人達成の節目を祝いました。



図書館長の山谷教育長から記念品を受け取る三上さん



アニバーサリーバルーンを高く上げて150万人達成を祝う関係者たち



自身が描いた絵本を紹介する鳥居さん(右)



豆本の作り方をアドバイスする田中会長(右)

バレーボールVリーグ女子公式戦が本市で初開催

Vリーグ女子1部の公式戦が伊藤鉱業アリーナつがるで初めて開催されました。

この日、第1試合は、本市をサブホームタウンとする東レアローズと岡山シーガルズが対戦。東レは第1セットを先取したものの、第2・第3セットは岡山が連取。迎えた第4セットは、終盤まで一進一退の攻防が続き、手に汗握る展開に。デュースとなった最終局面で、東レはヌワカロール・シルビアチネロ選手、弘前市出身の吉野優理選手のアタックでファイナルセットに持ち込みます。第5セットは、勢いに乗った東レが奪い、今シーズン初勝利を飾りました。

第2試合は、PFUブルーキャッツが3-1でプレステージ・インターナショナルアランマーレに勝利しました。

試合後の記者会見で東レの深澤つぐみ選手は、子どもたちに向けて「バレーボールはチーム競技だからこそ、人間関係だったり学ぶところが多い。一つずつ学びながらバレーボールを楽しんでほしい」と話しました。



レシーブする吉野選手



得点を決め喜ぶ選手たち



アタックを放つヌワカロール選手



11/3
牛瀨公民館



観客を魅了した歌や手踊り

庄巻の歌や手踊りに拍手喝采

牛瀨公民館(小山内竹一館長)が「歌謡&民謡 舞踊祭典」を開催。第59代青森県民謡王座芦田ゆかりさんをはじめ、第25代青森県手踊り名人位の宗家石川流石川義純さん、さらには上原げんと杯争奪のど自慢大会の歴代優勝者など総勢12組が出演。芦田さんは、軽快なトークで会場の笑いを誘いつつ、東北各地の民謡や津軽小原節、津軽じょんから節などを披露し会場を沸かせました。

会場には地域住民を中心に約320人が集まり、歌に手拍子を合わせるなどして楽しんでいました。

富港町から訪れた女性たちは「名人の民謡や手踊りをテレビでは見たことあるけど、生で見るのは初めて。すごく良かった」と笑顔を見せました。

市立図書館調べる学習コンクール受賞作品決定

市立図書館では、子どもたちに自ら学ぶ力をつけてもらおうと、第7回市立図書館を使った調べる学習コンクールの作品を募集。市内の小学校から18作品の応募があり、5点の受賞作品を決定。最優秀賞には、「大好きな馬のこと」と題し、馬の感情表現や品種ごとの特徴、馬市まつりの歴史などを紹介した、穂波小学校4年生長谷川綺春さんの作品が選ばれました。

長谷川さんは「調べるのは大変だったけど、いろいろなことがどんどんわかって楽しかった。馬の気持ちや種類などを知ることができたので、もし馬に触れ合う機会があったら今回学んだことを生かしたい」と話しました。

他の受賞者は次のとおりです。(敬称略)▽優秀賞 田村彩(森田小3年)、瑞穂小6年1組(28人)、▽優良賞 須藤乃愛(森田小6年)、▽特別賞 古川りりか(森田小6年)

長谷川さんと優秀賞を受賞した田村さんの作品は、全国コンクールに推薦されました。また、受賞作品は12月26日から3月末ころまで図書館で展示していますので、ぜひご覧ください。

11/11
市立図書館



右から古川さん、田村さん、長谷川さん、穂波小6年1組の代表2人